

# 令和5年度 第2回 塩竈市地域公共交通会議

## 協議資料

令和5年5月29日（月） 14：00～15：00

塩竈市役所 3階 北側委員会室

# 目次

---

現状と課題	2 p
運行維持に向けた対策	
（１）バス料金改定	3 p
（２）乗客数増加策	4 p
（３）広告による収入増加策	7 p

# 現状と課題

## ①本市基本情報

面積：県内で2番目に小さい

人口密度：県内で2番目に多い

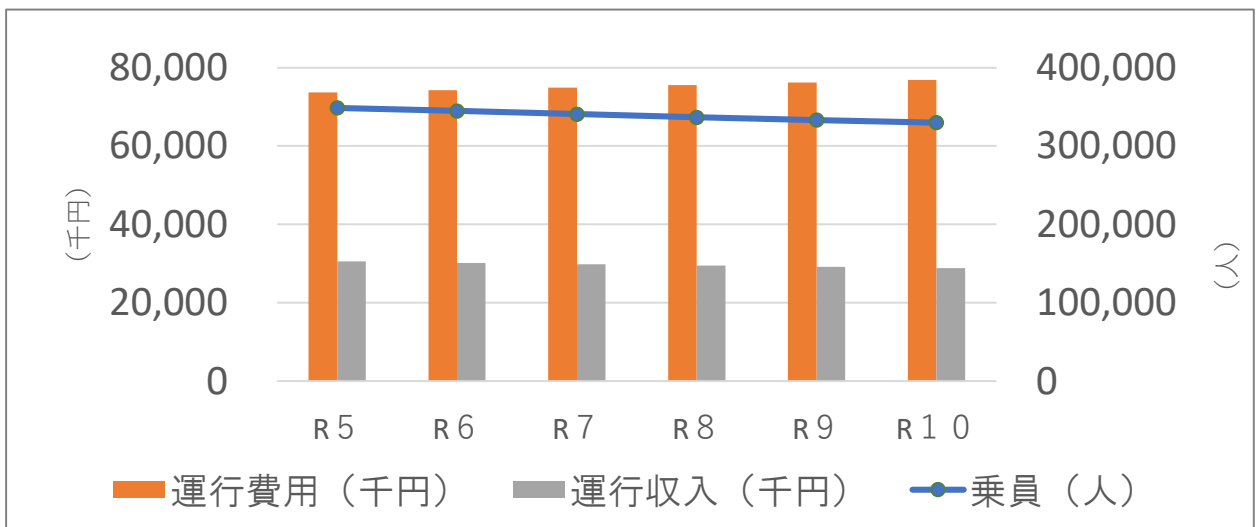
公共交通機関：しおナビ100円バス、NEWしおナビ100円バス（青バス便白バス便）  
JR市内4駅

## ②塩竈市の現状

本市内において運行しているバスについては、人口減少により相対的な利用者数の減少が見込まれる中、人件費を始めとした運行経費の増加が重なり、運行に係る経費負担は年々増加することが考えられる。（下図参照）

■収益の推移のシミュレーション（第1回資料より）

各項目	R5	R6	R7	R8	R9	R10
乗員（人）	348,758	344,734	340,710	336,686	333,267	329,848
運行費用（千円）	73,651	74,282	74,920	75,565	76,225	76,892
運行収入（千円）	30,512	30,160	29,807	29,455	29,156	28,857
営業係数	241	246	251	257	261	266



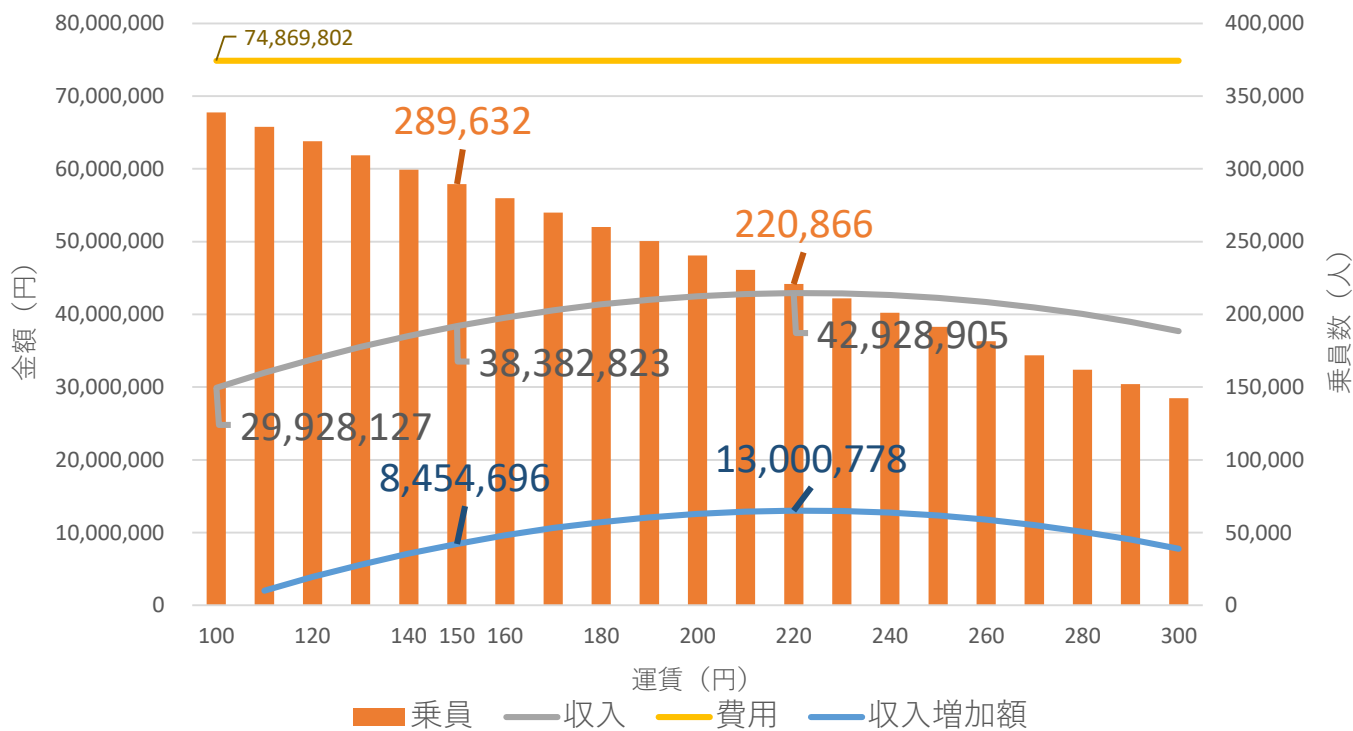
## ③今後の課題

市民サービスとして重要な地域の足の役割を維持するためには、経費負担を抑え、バス事業を継続する必要がある。

# 運行維持に向けた対策

## (1) バス料金改定

### ■料金改定後の収入額シミュレーション



#### シミュレーション条件

- 乗員：東村山市が公表した100円から180円への改定後利用者数年間比-23.2%を、令和4年度の乗客実数（338,751人）に対し乗じた値を180円設定時に適用。前後は同率で推移。
- 収入：1人あたりの運賃に対し、設定運賃増額率を乗じたもの。
- 費用：令和4年度実績値より。

- ①料金設定：220円 → 収入：13,000,778円増 収益率のピーク（42,928,905円）  
コロナ前収入平均より約6,379,000円増額
- ②料金設定：150円 → 収入：8,454,696円増 コロナ前収入平均を上回る（38,382,823円）  
（コロナ前収入平均：36,550,000円）※H29-R1年度

このことから、本市バス運行について、現行同様の運行形態・乗客数とした場合、料金改定のみの対策では黒字化は見込めないものの、収益率の改善は可能と推測される。

#### メリット

- 220円へ料金改定を行うことで、利益が最大値となる見込み。
- 150円から、コロナ前の平均収入を上回る。

#### デメリット

- 料金上昇により、利用者の負担は増すことで、利用者数は減少することが予測される。
- 今後の物価上昇により、一時的な収益率改善が見込まれても将来的に再度収益率が下がることが予測される。

# 運行維持に向けた対策

## (2) 乗客数増加策

### ①現状

利用者数はコロナ禍前後平均を比較して約76,000人減少  
 行動制限が緩和された令和4年度は、前年度より約10,000人の利用客増

令和5年度についても同程度の増加が予想

→コロナ禍前以上の利用者数自然増は見込めない

■過去5年間のしおナビ100円バス・NEWしおナビ100円バスの実績（第1回資料より）

各項目	H30	R1	R2	R3	R4
乗員（人）	410,651	402,794	324,324	328,744	+10,000 ↑ 338,751
運行費用（千円）	66,601	68,109	73,338	73,941	74,870
運行収入（千円）	36,972	35,877	28,740	29,282	29,929
営業係数	180	190	255	253	250

時期	しおナビバス（年次）				NEWしおナビバス（年度）			
	乗員	運行費用 （千円）	運行収入 （千円）	収支率 （%）	乗員	運行費用 （千円）	運行収入 （千円）	収支率 （%）
コロナ前 平均	315,402	46,183,000	27,616,000	60	91,828	20,502,000	8,934,000	44
コロナ後 平均	252,347	49,561,000	21,866,000	44	78,259	24,488,000	7,451,000	30
差額	-63,055	3,379,000	-5,750,000	-16	-13,569	3,986,000	-1,483,000	-13

（参考）塩竈市第6次長期総合計画 年齢構成別人口・高齢化率

	実績値	推計値				
	R 2 2020年	R 3 2021年	R 8 2026年	R 13 2031年	R 18 2036年	R 23 2041年
人口	53,474	52,996	50,578	48,010	45,240	42,259
増減		△478	△2,418	△2,568	△2,770	△2,981
高齢化率	33.8%	34.1%	35.6%	36.8%	38.3%	40.3%

# 運行維持に向けた対策

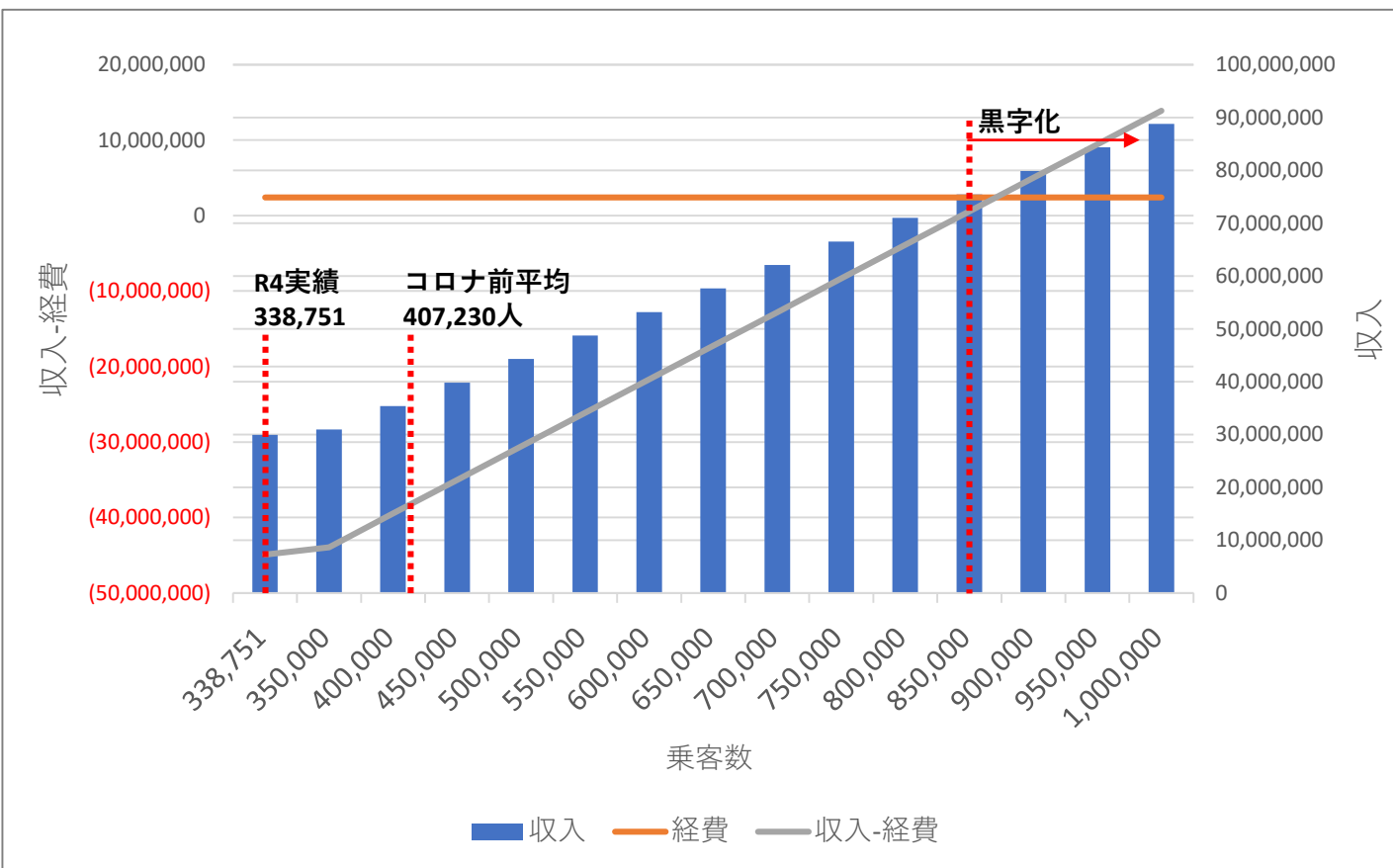
## (2) 乗客数増加策

### ②増加目標人数について

令和4年度実績を基準として、運賃100円、経費同額とした場合、バス事業全体が黒字になるためには、年間利用者数は約510,000人増加の850,000人以上を見込まなければならない。(下図参照) この数値はコロナ禍前の倍以上の数値となる。

また、コロナ禍前の令和元年度と令和4年度の乗客実績を比較すると**約64,000人減少**している。経費負担を同程度とするには、減少した客足を戻す必要がある。

■乗客数別の収支推計



# 運行維持に向けた対策

## (2) 乗客数増加策

### ③具体的な対策案

対策	期待される効果
子ども・学生無料 (現在1~12歳は50円、1歳未満は無料)	・子ども連れの大人利用者増加 ・市内移動のバス利用習慣化
シルバーパス	・高齢者の外出促進 ・自動車運転機会の減少
免許証返納者の2年目以降 乗車料金免除継続	・自動車運転免許返納促進 ・返納者の利用数増加
定期券	・定期購入(お得感)による利用促進
回数券の発行 (3,000円で35回分の利用券など)	・回数券購入(お得感)による利用促進
バス利用促進デー (毎月〇〇日は半額など)	・利用者の増加
自治体マイナポイント活用 (バス利用者へのポイント付与し、貯まったポイントは各種決裁サービスで利用可能とするなど)	・利用者の増加 ・地域経済の活性化

#### メリット

- ・新たな選択肢としてバスを選んでもらいやすい。
- ・地域の足として移動制限者に対するサービス強化となる。

#### デメリット

- ・一時的な利用者数の増加に留まる可能性がある。
- ・バスの運行本数、座席数に限りがあるため、増加数にも限りがある。

その他、バスを使った観光ルートの作成や、キャッシュレス決裁対応など利用客増加策は考えられるが、実施にあたりイニシャルコストを要することから、これらの案については、一定数利用者が回復してから改めて検討を行うものとする。

# 運行維持に向けた対策

## (3) 広告による収入増加策

運賃以外の収入増加策について、広告収入が考えられる。  
広告媒体と価格の一例については以下の通り。  
なお、広告媒体はNEWしおナビ100円バスに限られる。

広告媒体	参考価格（年）
ラッピング ・フルラッピング ・一面ラッピング	120～200万円 40～80万円
デジタルサイネージ	50～100万円
ネーミングライツ	10～30万円
バス停広告	1～3万円

参考：株式会社ユニラボ「アイミツ」  
塩竈市ネーミングライツパートナー募集要項

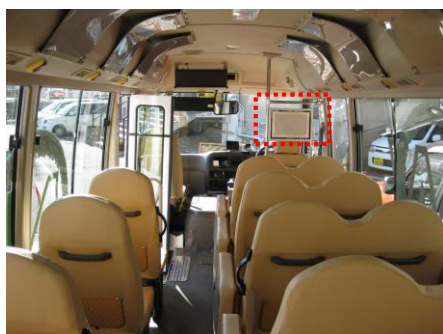
### ■各広告掲載箇所イメージ（赤枠）



フルラッピング



一部ラッピング



デジタルサイネージ



バス停広告

### メリット

- ・安定的な収入が見込める。
- ・地元事業者の広告がつくことで、市民のバスに対する愛着が生まれやすい。

### デメリット

- ・長期間広告主が一定数必要。
- ・ターゲットが限定的なため、広告効果が薄く広告主が現れにくい。





塩 竈 市  
総務部政策課